

令和5年7月25日
防 衛 省

資料要求について

下記について、資料を提出いたします。

記

要求内容：米海軍厚木基地における泡消火剤放出事故に関わる「新しい質問」

貴職によると、米側からは「回収した泥及び洗浄水は、P F O S 等含有産業廃棄物として、日本国内の許認可を受けた施設において焼却処分する計画である」という説明があったとのことだが、この処分費用について日本政府が負担をするという事実あるいは計画はあるのか。具体的に明らかにしていただきたい。

2022年12月に泡消火剤の交換作業を完了する予定とあるが、現在米海軍厚木基地に、P F O A 等を含む泡消火剤はどのくらい残っているのか。交換した旧泡消火剤は、厚木基地から搬出するのか、それとも厚木基地内に「保管」するのか。それぞれ具体的に明らかにしていただきたい。

9月28日、蓼川下流でのサンプリング調査で180ng/Lという非常に高い数値が検出されたが、流域では水田耕作が行われている。飲料水と同様に浄化対策がとられるべきだが、これについてどのように考えているか。

厚木基地の周辺河川で毎年神奈川県がサンプリング調査を行っているが、2022年の調査結果では、引地川では、草柳橋でP F O S , P F O A の合算値（以下いずれも合算値）が19ng/L、福田1号橋で270ng/L、蓼川では厚木基地上流で19ng/L、立川橋で250ng/Lと、いずれも厚木基地の排水を受けた後、あるいは厚木基地を通過した後に、数値が急増している。この傾向は毎年続いているが、これについて防衛省は、どのように考えているか。またこれについての対策をどう検討しているのか。

また、厚木基地南側の本蓼川地区の地下水質の調査結果でも、2022年度、P F O S , P F O A の合算値で1800ng/Lと異常に高い数値が検出されている。これも毎年同じ傾向が続いている。これは、厚木基

地下の水脈を地下水が通過したことによるものと考えられるが、防衛省はどのように考えているか。またこれについての対策をどう検討しているのか。

2021年度に実施した全国の自衛隊基地等における泡消火設備専用水槽の水質調査の分析結果として本年7月22日に防衛省が公表した「自衛隊施設における泡消火設備専用水槽水調査結果について」によると、全国の自衛隊施設の泡消火設備専用水槽にも、高い数値のPFOS等が残留していることが示されている。まず、PFOS含有消火薬剤等の処理（交換・処分）の作業はどの程度進んでいるのか。とくに神奈川県内の状況について示すこと。また、調査によってPFOS等の混入が確認された水槽水について、その管理の状況と今後の処理計画を具体的に示すこと。とくに神奈川県内の状況や計画について詳細に説明すること。

（以上）

貴職によると、米側からは「回収した泥及び洗浄水は、P F O S等含有産業廃棄物として、日本国内の許認可を受けた施設において焼却処分する計画である」という説明があったとのことだが、この処分費用について日本政府が負担をするという事実あるいは計画はあるのか。具体的に明らかにしていただきたい。

(回答)

- 日本政府において経費を負担する計画はありません。

2022年12月に泡消火剤の交換作業を完了する予定とあるが、現在米海軍厚木基地に、P F O A等を含む泡消火剤はどのくらい残っているのか。交換した旧泡消火剤は、厚木基地から搬出するのか、それとも厚木基地内に「保管」するのか。それぞれ具体的に明らかにしていただきたい。

(回答)

- 米側からは、
 - ・ 2022年11月に、厚木海軍飛行場において、原料にP F O S等を含まない泡消火薬剤への交換作業を完了し、
 - ・ 交換前のP F O S等を含む泡消火薬剤は、日本国内の認可された処分施設において焼却処分した、旨の説明を受けています。

9月28日、蓼川下流でのサンプリング調査で180ng/Lという非常に高い数値が検出されたが、流域では水田耕作が行われている。飲料水と同様に浄化対策がとられるべきだが、これについてどのように考えているか。

(回答)

- 現時点でP F O S等と健康影響の関係については科学的知見が十分ではなく、環境省などの関係省庁において、毒性評価などの最新の情報収集に努めており、引き続き、関係自治体及び関係省庁と連携して対応してまいります。

厚木基地の周辺河川で毎年神奈川県がサンプリング調査を行っているが、2022年の調査結果では、引地川では、草柳橋でPFOS, PFOAの合算値（以下いずれも合算値）が19ng/L、福田1号橋で270ng/L、蓼川では厚木基地上流で19ng/L、立川橋で250ng/Lと、いずれも厚木基地の排水を受けた後、あるいは厚木基地を通過した後に、数値が急増している。この傾向は毎年続いているが、これについて防衛省は、どのように考えているか。またこれについての対策をどう検討しているのか。

- 2020年度から、神奈川県、大和市及び藤沢市が引地川及び蓼川においてPFOS等の調査を行っていることは承知しております。
- その上で、日本国内において、PFOS等は、これまでも様々な用途に使用されてきたと承知しており、現時点でPFOS等の検出と在日米軍との因果関係について、確たることを申し上げることは困難です。
- 引き続き、事実関係の把握に努めるとともに、関係自治体及び関係省庁と連携し、対応してまいります。

また、厚木基地南側の本蓼川地区の地下水質の調査結果でも、2022年度、PFOS, PFOAの合算値で1800ng/Lと異常に高い数値が検出されている。これも毎年同じ傾向が続いている。これは、厚木基地下の水脈を地下水が通過したことによるものと考えられるが、防衛省はどのように考えているか。またこれについての対策をどう検討しているのか。

- 2021年度から、神奈川県が綾瀬市内の地下水においてPFOS等の調査を行っていることは承知しております。
- その上で、繰り返しになりますが、日本国内において、PFOS等は、これまでも様々な用途に使用されてきたと承知していることから、現時点でPFOS等の検出と在日米軍との因果関係について、確たることを申し上げることは困難です。

- 引き続き、事実関係の把握に努めるとともに、関係自治体及び関係省庁と連携し、対応してまいります。

2021年度に実施した全国の自衛隊基地等における泡消火設備専用水槽の水質調査の分析結果として本年7月22日に防衛省が公表した「自衛隊施設における泡消火設備専用水槽水調査結果について」によると、全国の自衛隊施設の泡消火設備専用水槽にも、高い数値のPFOS等が残留していることが示されている。まず、PFOS含有消火薬剤等の処理（交換・処分）の作業はどの程度進んでいるのか。とくに神奈川県内の状況について示すこと。また、調査によってPFOS等の混入が確認された水槽水について、その管理の状況と今後の処理計画を具体的に示すこと。とくに神奈川県内の状況や計画について詳細に説明すること。

【泡消火薬剤の交換・処分】

- 防衛省においては、PFOSを含有する泡消火薬剤等について、令和2年2月に「防衛省における処理実行計画」を定め、交換及び処分を実施しているところ です

神奈川県内に所在する自衛隊の基地等におけるPFOS含有泡消火薬剤等の処理状況について、令和3年度末時点の集計では、海上自衛隊の横須賀基地及び厚木航空基地を除き、処理を完了しており、これらについても、令和5年度末までに処理を完了することを目標として、処理を進めているところです。

【水槽水の水質調査等】

- 防衛省としては、これまで、環境に配慮した取組を積極的に推進してきたところ、2022年7月22日、全国の自衛隊施設において、過去にPFOS等を含有する泡消火薬剤を使用していた又は使用していた可能性がある61施設(229水槽)の泡消火設備の水槽の水について、PFOS等の分析結果を公表しました。
- 本水質調査により水環境中の暫定目標値を超えるPFOS等の混入が確認された125水槽の水については、引き続き適切に管理するとともに、調査結果を踏まえつつ、昨年度(令和4年度)から順次、処分を進めております。